

Ohmi Net

No. 48  
7・8月号

淡海ネットワークセンター

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

- 発行日/2005年7月1日
- 発行所/(財)淡海文化振興財団

おみネット



BIWA CHAN

県民 152人  
巻頭アンケートVOL.12

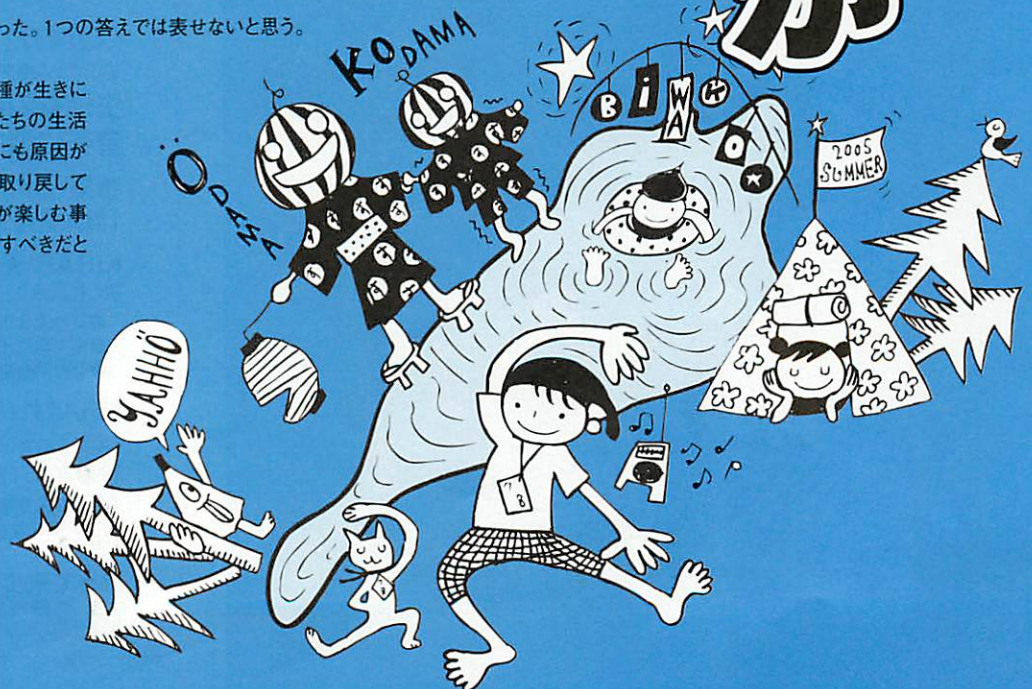
# 琵琶湖の在来種が 減った原因は？

外来魚が増えたから？それとも人間が水を汚したから？

Q1.琵琶湖の在来種が減った原因は？

県民152人巻頭アンケートVol.12

- 水質汚染、特に水上バイク等のオイルもれ等、整備不良。
- 護岸をコンクリートで固めたりしてヨシが失われ、産卵場所、生息場所の減少、消滅が大きな原因では…。さらにブラックバス、ブルーギル等外来魚の被害もある。
- 外来魚が大量に繁殖したから。
- 双方共に影響はあると思います、でも人による水質汚濁が一番の要因ではないかしら。自然を相手に考えると人類の存在が一番環境側面での影響が大きいと考えています。人類を除いた全ての生物は自分自身を環境に合わせて来ましたが人類は環境を自分の都合の良いように変えようとしています。地球とそこに住む全ての生物の高は人類でしょう。もっと広い考えで思いやりを持たないと世界を滅ぼす事になりかねません。
- もともと外来種を放流した人は罪深い。その人は出てきてきちんと話してほしい。釣り人を責めるのはおかしいと思う。農業も工業も生活排水も琵琶湖を痛めつけてきた。皆に責任がある。
- どちらも原因だが水質が悪くなった。
- どちらも原因があるとは思いますが片方だけとは思いません。ただ外来魚の猛威より人間の汚れのほうがダメージが大きいのでは？
- もちろんブラックバスなどの外来種が、フナやモロコなどを食べていると思いますが、それ以上に私たち人間が水辺を汚し、水を痛めつけ在来種の住みにくい琵琶湖にしたのではないのでしょうか？
- 人間が悪いに決まってる。水を汚すのも、ブラックバスを放流するのも皆人間だ!!
- 人々の生活を江戸時代までタイムスリップできれば、環境問題を論じてもいいと思いますが、現状を維持したいのであればなるべくしかなりません。フナが減っても増えても文化的生活に対して変化はないでしょう。
- ヨシが少なくなり、魚が繁殖できなくなったのではないですか？
- まずは人間の快適な環境を目指すのではなく、自然との調和を最優先にすれば、今よりはマシになるでしょう。
- 外来種が多くなり住む場所がなくなった。1つの答えでは表せないと思う。いろんな原因がある。
- 琵琶湖自体の環境が変わって在来種が生きにくくなっているのだと思う。それは私たちの生活環境の変化もあるし、外来魚の繁殖にも原因があると思う。少しずつ昔の琵琶湖を取り戻していかなければいけないと思う。人間が楽しむ事より先に環境を元に戻すことを優先すべきだと思います。
- 外来魚、ヨシ帯の減少、水位操作





第八回 生態系の仕組みはバロック音楽に似ている？

木村光一（事務局スタッフ）

琵琶湖は永い年月を掛けて、今の伊勢湾あたりから移動してきた。やがて福井小浜のあたりから日本海へ至るといふ。もちろん、一千万年の年月を掛けてではあるから、琵琶湖が日本海とつながって汽水湖か湾になる頃まで人類が生きていられるかどうかという、永い時間ではある。地域固有の生命も、こうした時間をかけて種を生み、ある種は滅亡しつつ、しかし絶えることなく枝分かれし、受け継がれる。地球上の生物種は数千万あるとも言われるが、人が自然との関わりを大きく変えた産業革命以降に種の絶滅の早さが増して、今は1時間あたり3種が滅びているらしい。

生態系で自然を捉えるということが大切なのだが、なぜ大切なかを理解している人は少ないようだ。これは、人類の未来を考える上でも重要なことである。よく食物連鎖のピラミッド図を例に挙げて、人間が生態系を破壊していることの指摘をされる方もいるし、アンケートに答えた方にも見受けられる。

人には一見、何の役に立っているのか分からないような虫も、食物連鎖のピラミッドの中で上位と下位の種をつなぐ役割を持っていたり、ある季節、ある環境においては別の虫と関係しながら特定の植物の繁殖に強く関わっていたりする。複雑な自然界は、実は非線形の世界、フラクタルでいっぱいだが、生態系においても絶え間ない自己相似的な秩序を持ちながら、少しずつ異なった環境を創り出している。それを私たちは、積み上がった積み木の途中から、一つ、一つ抜いていくように、生態系の破壊を進めているのだろう。このことをよく理解しないで、そういう仕組みになつて自然を漠然と捉えているだけのようだ。

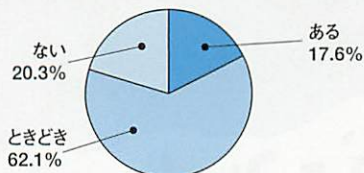
連なった自然の秩序を「バロック音楽に似ている」とある人が言った。私たちは、自然環境や風景という心地よい緊張感を楽しませてもらっている。その奥には、まだ探りきれっていない不思議がいっぱい詰まっていると考えると、とても大切なものだとは思いませんか。



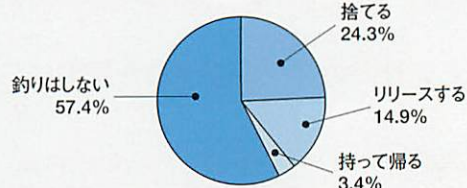
琵琶湖の在来種が減った原因は？ 県民152人巻頭アンケートVol.12

▶▶▶表紙よりつぎ

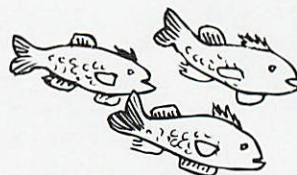
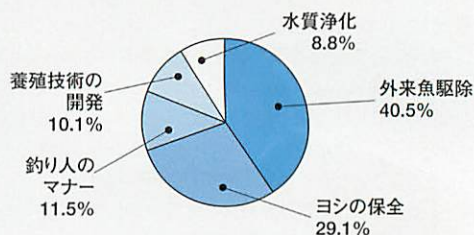
Q2.琵琶湖の魚を食べたことがありますか？



Q3.琵琶湖で釣った外来魚は、どうしていますか？



Q4.ニゴロブナなど昔から琵琶湖に住んでいる魚を守るために必要なものは？



アンケート：携帯情報メール発信会社「j2メール」協力  
 県民：152名（回答数）男性64名 女性72名 性別不明16名  
 10代…3名 20代…28名 30代…51名  
 40代…41名 50代以上…16名 年齢不明…13名

【9月号のアンケート】

次回9月号はシニアライフをテーマにした巻頭アンケートを実施します。読者の皆さんもぜひ、アンケートにご協力ください。詳しくは「センターインフォメーション」をご覧ください。

CONTENTS

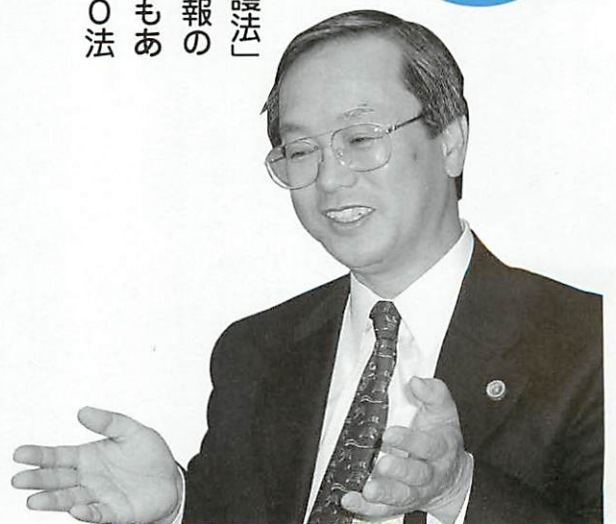
- 巻頭コラム ● アンケートから考える  
**生態系の仕組みはバロック音楽に似ている？ …… ①**
- 特集・Oh!Me!Eyes  
**【個人情報保護法とNPO】… ②**
- KIRARI★INTERVIEW… ⑤  
 私たち「きらり」輝いています！NPO  
 ●びわ湖自然体験スクール（教育）  
 ●桜プロジェクトわれら活動隊（まちづくり）  
 ●びわ湖ベジタブルロード（農業）
- がんばれ！NPO 応援団… ⑦**  
 【めととと★コラボ】  
 【おうみネット講座・寄付を考える Vol.2】  
 【おうみ未来塾 リレーエッセイ】  
 【NPOホームページ探検隊】
- 行って来て見て情報BOX  
 7月・8月… ⑨



# 個人情報保護法とNPO

— 個人情報をまもるためにNPOが考えなければならぬことは? —

名前や住所、電話番号といった個人情報を不正に扱われないようにするための法律「個人情報保護法」が今年の四月一日から全面施行されました。これによって個人情報を持つ企業や団体などに、個人情報の漏洩や不正取得を防ぐためのさまざまな義務が課せられることになりました。従わない場合には罰則もあるとか。今回のおうみネットでは、個人情報保護の考え方とNPOが対応すべき事柄について、NPO法人代表人大阪NPOセンター理事で弁護士三木秀夫さんに伺いました。(事務局 笹山衣理)



**個人情報保護法で保護される個人情報とはどういうものなのでしょうか。**

**三木** 同法でいう個人情報とは「生存している特定の個人を識別できる情報」と定義されています。名前、住所、電話番号、所属団体はもちろん、その人のくせや病歴なども個人情報です。生存者情報ですので、死亡した人にかかる情報は、この法律で保護される個人情報から省かれます。

よく個人情報は「プライバシー」と混同されることがありますが、プライバシーは個人の知られたくない情報に限定されるのに対して、すでに公表している情報、人に知られてもいい情報であっても、個人に関

する情報はすべて個人情報となります。例えば、私の名前や職業、事務所の所在地は、ホームページで公表していますのでプライバシーではありませんが、個人情報にはなるわけで、この法律で保護される対象となります。

**法律では、個人情報取扱事業者に対してさまざまな義務を課していますが。**

**三木** まず、個人情報を扱うときには**利用目的を特定**しなければならないということです。団体で取得した個人情報をどのように利用するのか特定し、その目的以外に使用してはなりません。

それから、**適正な取得義務**というのがあって、不正な方法で情報を取得してはいけないということ。当たり前のことですが、こっそりデータを持ち出したりするのはダメだということです。

そして、本人から書面等で直接に情報を取得するときは、必ず**利用目的を通知**しなければなりません。例えばセミナーに出席すると、受付で名前と住所を書いてくださいといったことがありますが、この情報を何のために使うのか、例えば後でいろいろ案内を送るためとか、目的を示す必要があります。本人から直接に取得しない場合に関しても、あらかじめ利用目的を公表



# もはや個人情報を持つことは 財産ではなくリスクであると 考えるべきでしょう。

している場合を除いては、取得後に本人に通知・公表が必要です。ホームページなどであらかじめ公表しておくのがいいでしょう。

あと、苦情や問い合わせがあったときに対応しなさいという義務があります。

個人情報ほさらに、「個人データ（注1）」「保有個人データ（注2）」に分類されますが、これらにあてはまると、データ内容の正確さに努めなさいとか、安全管理措置を講じなければならぬとか、どういう情報を持っているのか公表しなければならぬとか、いろんな義務が生じてきます。（図）

**■ NPOも個人情報取扱事業者としてどういった対応が必要になるのでしょうか。**

**三木** ほとんどのNPOが、法律で規定される個人情報取扱事業者からは外れると思います。というのは、個人データを五千件以上保有している団体が、法律でいうところの個人情報取扱事業者となるわけですので、これにあてはまるのはかなり事業規模

の大きい団体ですよね。ただ、サービス対象者の多い福祉NPOや、書籍の定期購読者をたくさん抱えている団体などであてはまるころはあるでしょう。

**■ では、ほとんどのNPOはあまり気にしなくてもよいのでは？**

**三木** そうでもないと思いますよ。個人データ五千件というのは、あくまでも行政が監督するために引いたラインなのであって、個人情報への意識が浸透して、その保護が社会ルールになってきたと言える今日では、社会のルールを無視するような団体は、やはり社会的信用を失うことになりま

す。外部の支援者や資源によって活動するNPOにとって、社会的信用を失うということは避けなければなりませんね。

また、仮に個人情報取扱事業者でないからこの法律の適用がないとしても、個人情報本人にコントロール権があるという考え方が主流になってきたことから、漫然と

渡・流出があれば、過失責任を問われて、本人から損害賠償を請求されることもあり得るわけですよ。これは営利・非営利を問わず、すべての事業者が十分注意すべきことだと思います。

**■ NPOが特に気をつけなければならないことはありますか。**

**三木** NPOは企業と比べて開かれた組織形態であるので、普段いろんな人が出入りします。専従スタッフもいれば、ときどきボランティアで関わる人もいたりしてね。たまにしか来ない人に適正に対応させるのは難しいので、情報にアクセスできるメンバーを特定の人に決めておくというのがいいでしょうね。

保有個人データについては、特に理由がない限り、本人から開示の求めがあれば、



**■三木秀夫さんプロフィール**

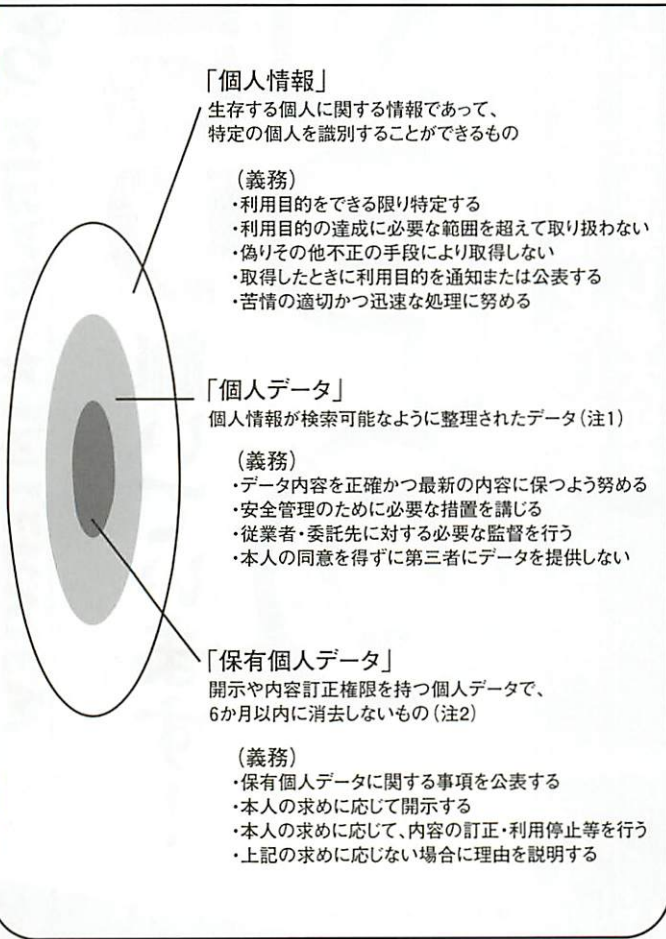
弁護士。三木秀夫法律事務所所長。現在、大阪大学法学部非常勤講師、日本NPO学会理事、NPO法人大阪NPOセンター理事、消費者ネット関西常務理事などを務める。著書に「NPO法人の設立と運営Q&A」（共著）など。

**【プライバシーポリシー】**

事業者が、自らの個人情報の取り扱いの際の基準・方針を定めたもの。個人情報保護方針ともいいます。個人情報保護法で作成、公表を義務づけているわけではありませんが、公表することで社会の信頼を得やすくなる効果があるため、多くの事業者がホームページなどで公表しています。方針に定めた内容について責任が生じることになります。



※(図)個人情報の3区分と個人情報取扱事業者の義務



三木秀夫さんおすすめの



「これだけは知っておきたい  
個人情報保護」

岡村久道・鈴木正朝著  
日本経済新聞社  
525円

個人情報保護法が求める義務や実務上の注意点について、75ページのポケットサイズ判に凝縮。フルカラーで読みやすく、これだけは知っておきたいというポイントに絞ってあるため、入門編としておすすめです。



淡海ネットワークセンターでは、三木秀夫さんを招いて  
**「市民活動・NPOのための  
個人情報保護講座」**を開催します。

※参加を希望される方はセンターまでお申し込みください。

日時：8月26日(金) 13:30~16:00

場所：草津市立市民交流プラザ(フェリエ南草津5階)

開示しなければならぬことになっています。ただ、「なりすまし」という問題がありまして、他人が本人を偽って請求してきた場合について教えてしまい、あとでトラブルが起こっているケースがあります。

開示請求があったときは勝手に判断しないで、責任者が対応するようにするか、本人確認の方法など、マニュアルを作っておくのも対策として有効でしょう。

完璧な対策を講じるのはたいへんですね。

三木 情報の漏洩・流出の危険性をゼロにするのは、不可能でしょう。パソコンで作業するときに、少し席を離れる度にいちいちパスワードを入れなければならないように設定するとか、実際にしようと思っただけでいいんです。でも、個人情報の保護を意識することは大切だと思います。少なくとも、机の上に名簿やカルテを置きっぱなしとか、そういうことは、意識することで防げるでしょう。

そして、個人情報を適正に管理する最も有効な方法は、不必要な情報は持たないこと

いうことです。取得した情報についても、目的のないものは消去していく。一定の期間が経過したら自動的に消去していくようなくみを持つことも一考です。情報を持たなければ漏洩の心配もなく、管理の労力やコストもかかりません。もはや個人情報を持つことは、財産ではなくリスクであると考えべきでしょう。

ありがとうございました。



# きらり輝いています！

●雑魚採り大会の様子



地域でボランティア活動を広めようと奮闘しているあなた、新たにNPO活動を立ち上げて琵琶湖のまわりを走りまわっている君、『淡海』というフィールドで、静かだけれど、どこか「きらり！」と輝いているボランティア活動や市民活動で活躍されているNPOの皆さんをご紹介します。

## 体験から学ぶ優しさ、感性、想像力 親子で自然を楽しむ大切さ

「昆虫や魚をつかんだり、ゲームや食事を楽しんだり、自然とふれあっていると子どもたちの目は輝いていますね」と子どもたちの歓声が聞こえてきそうな写真を手に、高野さんは目を細めます。

びわ湖自然体験スクールは、小学生の子どもたちが、自然の中で楽しくのびのび過ごすことができる遊びの学校です。昨年4月に開



●イベント「里山探検とアウトドアキャンプ」で作業している様子

校して、これまで十二回の自然体験を実施しました。今年度のスクール生は四十二名と、昨年に比べ倍増。スクールの価

値が認知された証拠でしょう。

今の子どもたちは、けなげに生きる小さな生きものへの愛おしさを感ずることが少ないといえます。親たちが自然体験を



●「大戸川雑魚採り大会」に参加した子どもたちとスタッフ

していないから、教わっていないのです。近ごろの親たちが子どもたちと外遊びの機会をあまり持っていないことを高野さんは気にしています。そこで、親同士の出会いと交流にも心がけたところ活動に積極的に関わる親たちが増え、いまでは四十八名がスクールに登録しています。それぞれが異なる市民活動グループで活動している五名のスタッフが、川遊びをしながら

らの水質調査や、ネイチャーゲームなど多彩な活動を展開しています。「私たち五人の力だけでは限界があります。でも、スクールの趣旨に賛同して下さる団体と連携することで、活動が広がっています。ボランティアを募集したところ、ぜひ、との申し出もあり、心強いかぎりです」。

今年度の自然体験のテーマは、「生きものと環境」。学校や家庭で体験できないことを、取り入れていきたい、と自然の中にある食材を使った料理を食べながらのプログラムや、沖島探検などの特別企画を計画、十月には葛川少年自然の家での「お泊まり自然体験」をしようと、親たちとスタッフが力を合わせて準備中です。

教育者ベスタロッチの「大自然こそ、最高の教育者」という言葉を実践しています。(編集ボランティア 西尾久美子)

●代表の高野隆男さん



### びわ湖自然体験スクール

代表●高野隆男  
設立●2004年4月  
会員●5名  
連絡先●大津市黒津4丁目2-2  
(ウォーターステーション琵琶内)  
TEL: 077-536-3520 FAX: 077-536-3530  
e-mail: taka6938@usenet.ne.jp



## 農業 NPO法人びわ湖ベジタブルロード



●ひまわり祭の様子。ひまわりの種からバイオディーゼルの原料となる油が採られます。

**「農業」「環境」「福祉」の視点で、めざせ！資源循環型社会**

豊かな緑が広がる大中干拓地。そこを拠点に環境や福祉にまで視野を広げた農業に挑戦しているのがびわ湖ベジタブルロード（BVR）です。

BVRは二〇〇三年一月に設立されましたが、それに先立つ十年前から有機肥料と土づくりにこだわり、農業を極力使用しない農法を追求してきました。そのこだわりは「理屈抜きにいい

ものをつくって、消費者に喜んでもらうのが一番」という理事の本江さんの言葉に表れています。人間の身体にとって安心安全な食べ物をつくるため、最近では駆除したブルーギルなどの外来魚を原料に有機肥料「フィッシュパウダー」をつくる取り組みを始めました。「環境」はBVRの第一のキーワードになっています。

BVRのもう一つのキーワードは「福祉」。こだわり農法にはとても手間暇がかかりますので、その担い手をどう確保するかが大きな問題になっています。また一方では就労の機会をなかなか得られない障がい者が大勢いま



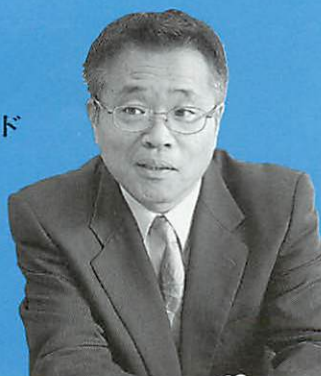
●毎週土曜13時～17時まで野菜販売される「野菜名人館」（安土町駅前通り沿い）

す。農業を障がい者の仕事おこしの場にできないだろうか…。そうした視点でBVRでは農業と福祉の連携を模索しています。

農作業、有機肥料づくり、農作物の販売などのあらゆる場面で障がい者が関わり、また障がい者自身が直接、農業就労することをめざして共同作業所アグリのリを開設。「消費者に直結するようなしなかけを作りたい」ということで、野菜名人館、大中グリーン工房での販売事業も行っています。

「農業」「環境」「福祉」の三つの領域にまたがり、地域振興を推進しているBVR。そうした多角的な視点から、BVRは農業が持つ様々な可能性を示しているといえます。

（編集ボランティア 松田達也）



●理事の本江宗明さん

## まちづくり 桜プロジェクトわれら活動隊

**高齢化がすすむまちで始めた地域活動 企業や大学との連携が進みつつあります**

県内のあちこちにある住宅団地は、開発されてから年を経て、高齢化が進んでいます。活発に活動してきた町内会でも、今は維持するのに四苦八苦というところも多いでしょう。たまたま同じところに移り住んだというだけのつながりでは難しいのです。

昨年三十周年を迎えた草津市の桜ヶ丘町内会でも、住民の高齢化が進みつつあります。そこで、「どうにもならなくなってきたのでは遅い。長期的な視野での住民による住民のための活動が必要だ」と、二〇〇三年に立ち上がったのが



●助け合いグループでパソコン教室を開いて生涯学習支援

桜プロジェクトわれら活動隊です。核になっていくのは、代表の錦織さんをはじめ、リタイア後の男性。「みんな元気で・楽しく・にぎやかに」をモットーに、「環境」「健康」「助け合い」の三グループに分かれて活動中です。特に、環境グループでは、県道の清掃を請け負う「エコフォスター制度」への参加や、草津市の「環境家族」（家庭版ISO）に百四十六世帯が取り組むなど、着実に参加者を増やしています。

活動資金を獲得するためいろんな助成金へ応募するうちに、桜ヶ丘以外の地域へ活動の



●環境グループで年2回開催される「環境クリーンウォーキング」風景

場を広げたり、企業や学生への呼びかけを行うようになりました。また、活動について、プレスリリースを行って外部に発信するなど、町内会とは異なる性格を持ちながら、町内会とうまく協力して活動を充実させています。

町内会と共催した春の桜祭りでは、十五件の家をスタンプポイントにして、オーブンガーデンや作品展などを巡るタウンウォーキングを実施しました。

これらの情報はホームページを通じて広く発信されています。取材に伺った日、その日のユニフォームでクリーンウォークに参加する皆さんの姿を見て、新しい地域活動のひとつの形を感じました。

（編集ボランティア 幡 郁枝）

### 桜プロジェクトわれら活動隊

代表●錦織三千男  
設立●2003年6月  
会員●132名  
連絡先●草津市桜ヶ丘2丁目7-11  
TEL & FAX：077-564-5988  
e-mail：kori@amber.plala.or.jp  
URL：http://www6.ocn.ne.jp/~sakura93/pjt.htm



●代表の錦織三千男さん(右)と事務局長の福田昌甫さん(左)



日本に寄付文化はあると言えるのですが、多くのNPOは財源としての寄付を考えていません。その理由として、NPO側が日本には寄付文化はないと信じ、これまで積極的に寄付を集めようとしなかったこと、日本の寄付市場に関するマーケティングリサーチがきちんと行われていなかったことなどがあげられます。また、寄付を頼むのは卑しいという意識もありました。こういったことから、これまでNPOは寄付者より会員を募る傾向にありました。

### ■寄付市場のゆるやかな移行

1990年代半ば頃から、日本の個人寄付市場はゆるやかな転換を始めています。バブル崩壊後の長期におよぶ景気後退や、1995年の阪神淡路大震災におけるボランティアの活躍といった出来事から、日本社会で市民活動やNPOの重要性が認識されるようになりました。1998年に特定非営利活動促進法（NPO法）が制定されたのもその表れであり、こういった活動に対する人々の関心、期待も高まっています。

実際、共同募金についても、公募を行いNPOに配分する都道府県は増えつつあります（2003年度で23都道府県）。また、企業もNPOを支援することで社会的信用を得ることを考え始めています。

日本ユニセフに対する寄付がこの10年間伸び続けているなど、日本でも、寄付金が具体的にどのような役に立っているかを、判りやすく示せるNPOへの寄付が、徐々に増えてきています。発想を切り換えて、寄付金がいかに公共の役にたっているかを示し、寄付者を募ることを考えてはどうでしょうか。工夫次第で、寄付金収入を増やす可能性は広がっています。

（フリーライター 大山純子）

※今回は「NPOが寄付を増やす工夫」について考えます。

（参考資料「日本の寄附市場とNPO」発行 シーズ=市民活動を支える制度をつくる会）

では授業の教材に取り入れ、大学のスター選手らが子どもたちの指導にあたるなど、草の根交流の輪が広がっています。2年前には正月に東京ドームで行われるライスボウルにダブル出場という快挙を果たしました。



▲BKCTで練習するリトルパンサーズ

大学の授業では「近江・草津論」が開講され、NPOや行政、企業人が滋賀の魅力や課題を学生たちに伝えていきます。また、学生が地域に飛び出し市民活動にふれるフィールドワークを積極的に取り入れ、関西で活躍するNPOのリーダーが巣立ってきています。「今後、公務員も含め地域を支える『地域公共人材』の育成プログラムに取り組み、地域の課題解決やNPO等の支援に役立てたい」（林田所長談）。

今年は、木爪原遺跡の公開や防災協定、留学生の支援など新しいテーマにも取り組む一方、1万6千人の学生と地域を結ぶ双方向メディアの構築も急務とのことです。目下、駐在事務所自体の活用も検討課題で、市民やNPO、学生に開放するサロンや情報発信基地としての役割を模索しています。

【問】草津市役所企画調整課

TEL.077-561-2320 FAX.077-561-2490

## おうみ未来塾

### リレーエッセイ

#### 「ミラクルな出会いから」

次回はおうみ未来塾2期生 鬼塚孝治さんです。

東近江水環境自治協議会  
事務局長

堤 良彦さん

（1期生/安土町役場総務課長）



東近江水環境自治協議会を設立して、早くも5年が経過しました。去る5月26日に第6回総会を終えて、新しい事業の展開を目指しています。

この間のさまざまな活動を通じて、たくさんのひとたちと出会い、それが継続して繋がっていることに感謝をしています。出会いの始まりは、おうみ未来塾セブン・ドロップスの環境グループ活動からでした。

水環境にこだわり、「集水域」単位で見ても行動したところ、鈴鹿の山並みから西の湖・琵琶湖を越えて瀬田川、宇治川、淀川のひとたちとも繋がりました。御堂筋パレードとヨシ舟での淀川下りの成功は、メンバーの自信になりました。大阪北浜のまちづくりワークショップをはじめあちこちから声が掛かってきます。

今年も経済産業省の環境コミュニティ・ビジネスのモデル事業の採択を受ける予定です

ミラクルな出会いが、新しい事業展開に導いてくれています。

### NPOホームページ探検隊

NPOや市民団体がつくるユニークなホームページを紹介します。

NPO法人 瀬田漕艇倶楽部

<http://www.setarc.jp/>



瀬田漕艇倶楽部は、ボートを愛好する人たちが、生涯スポーツとしていつまでもボートを漕ぎ続けられるようにと願い、立ち上げられたスポーツクラブ。2001年にはNPO法人となり、琵琶湖、瀬田川に根ざした水上スポーツ（ボート、カヌー、ドラゴンボート）の普及から、トップレベルの競技活動まで幅広いスポーツ文化の創造に取り組んでいます。ホームページでは瀬田漕艇倶楽部の競技活動や、会員以外の一般の方々を対象に行っているボート体験教室の案内などが紹介されています。



# がんばれ!NPO 応援団

市民活動を元気にする情報コーナー



## おひみネット講座

# 寄付を 考える

Vol.2

### 「日本人の寄付意識」

1999年に日本で行われた調査では、87%の人が1年間に寄付をしたことがあると回答しています。「日本には寄付文化がない」という言葉を聞くことがありますが、どうもそうではないようです。

ただ、日本の寄付には、一世帯あたりの寄付金額が少額である(アメリカの約1/5)、ボランティア団体やNPOに寄付をする割合が低いといった特徴があります。これには、日本人の寄付に対する意識が影響しているようです。

### ■「人知れず」「ささやかでも」という考えと「横並び意識」

アメリカで2000年に行われた調査によると、「人はなぜ寄付をするのか」という問いに対して「その大義に強く共感するから(59%)」、「正しいことや倫理的なことをしたいから(47%)」といった回答が上位になっています。

一方日本での調査では、「助け合いの心の表現(89.3%)」との考え方が目立ちます(図)。

これは、自分が現在幸福であるのは、どこかの誰かのおかげであり、それに感謝して自分も誰かのお役にたちたいという「おかげさま」の考え方です。また、恩を受けた相手に直接お返しをするのではなく、自分が寄付をした場合でも直接の見返りを求めません。「人知れず」行う善行こそ貴いのであって、過度に社会にアピールする行為も好まれません。また、金持ちが大きな寄付をするよりも、「ささやかでも」心のこもった寄付することに価値がおかれます。「陰徳陽報」「貧者の一灯」という思想の影響を日本人は強く受けています。

また、日本人には、みんなと同じであることを好む「横並び意識」という志向性があります。他者よりも目立つことを嫌いながらも「自分はなにか他人の役に立ちたい」と考えている人が多いといえます。

### ■寄付集めに消極的なNPO

日本人の9割ちかくが寄付をしているという調査結果からも、

【図】寄付についての意見

	そう思う そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そうは 思わない	わから ない
寄付は社会のモラルとして 必要なものだ	29.8	32.9	14.4	14.4	8.5
寄付は税金のようなものだ	7.3	18.5	65.4	4.8	4.0
寄付はできる人が できる範囲でやればよい	68.6			22.8	4.3
寄付は社会に対しての 恩返しである	18.5	27.6	20.6	28.3	5.0
寄付はたすけあいの 心の表現である	59.2			30.1	8.8
寄付は募金する人の 自己満足である	9.7	19.5	21.3	44.2	5.2
国や地方自治体が行政サービスを 十分行えば寄付は必要なくなる	23.0	18.0	21.4	29.7	7.8
税金の一部を自分の知っている 団体等に寄付してまわりたい	11.4	14.5	17.4	42.7	14.0

「共同募金とボランティア活動に関する意識調査(第2次)」より。2000年10月 社会福祉法人中央共同募金会

# めとてとコラボ

市民と行政、市民と企業などの、新しい市民協働(パートナーシップ)のカタチを紹介します。

## 草津市は立命館大学との連携を進めるため 全国でも珍しい駐在事務所をキャンパスに開設。

..... 草津市立命館駐在事務所



▲駐在事務所の3代目林田久充所長



▲キャンパス内「コアステーション」3Fに。



▲笠縫ふれあい広場で歌声の披露



▲草津宿場まつりに参加する落語研究会

2003年11月、草津市市制50周年と立命館大BKC(びわこ・くさつキャンパス)開学10周年を記念して、草津市と立命館大学は、地元企業を含めた産官学連携や人材育成などあらゆる分野での連携協力関係を発展させるために包括協定を締結。その窓口として、キャンパス内(コアステーション3F)に草津市の駐在事務所が開設されました。

1994年の開学以来、BKCは地域に開かれた大学を目指して、さまざまな地域交流にチャレンジしてきました。周辺自治会との連絡会を発足し、学園祭や自治会のまつり

で交流したり、学生が自治会のHP製作を手伝ったり。BKC開学当初に行われた「衣笠~BKCナイトハイク」には、早朝5時に到着する学生らを地元のうどん屋さんが温かなもてなしをするなど「顔の見える関係」が深まってきています。

「草津宿場まつり」では、大学の「落語研究会」や「ケン玉研究会」などが大人気で、地域の行事に様々な学生サークルが参加しています。草津のまちづくりを考える「くさつさく倶楽部」では、アメフトチーム「立命館パンサーズ」の市民応援団を開設した縁で、小学生のフラッグフットチーム「草津リトルパンサーズ」が誕生。市内の小学校



# 9月・10月の掲示板 情報募集中!

日時・場所・問合せ先等を明記の上、8月8日までにEメール、FAXまたは郵便でセンターまでお寄せください。

## 財団法人みずほ福祉助成財団 平成17年度(第25回)社会福祉助成金事業

- 対象●法人施設、団体、共同作業所又は研究グループとし、個人は除きます。
- 対象事業●心身障害(児)者、精神障害者に関する事業及び研究で先駆的・開拓的事業を優先します。
- 提出期限●7月末日(当日消印有効)
- 申込書請求●下記財団へ葉書あるいはFAXで請求。または、下記のホームページよりダウンロード。
- その他、詳しくは下記まで。【問】財団法人みずほ福祉助成財団
- 住所:〒100-0004 東京都千代田区大手町1-5-4
- TEL:03-3201-2442
- FAX:03-5252-8660
- URL:<http://homepage3.nifty.com/mizuhofukushi/pdf/index.html>
- e-mail:[BOLO0683@nifty.com](mailto:BOLO0683@nifty.com)

## 日野自動車グリーンファンド2005年度助成

- 助成の対象●
- (1)都市並びにその周辺住民の生活上の潤いに資する緑化
- (2)都市並びにその周辺に残された自然環境の保全
- (3)自然環境保全に資する調査研究
- (4)自然教育、自然保護思想の普及、自然環境保全に資する啓発等
- 助成対象者●
- (1)前記に係わる活動・研究を行う個人・団体・グループ等
- (2)申請者の資格
- a)活動の基盤が日本国内であること。
- b)団体については、原則として設立2年以上を経過しており活動実績のあること。
- c)外国人でも応募可能、但し日本語での応募であること。
- 応募方法●所定の申込用紙に必要事項を記入の上、事務局宛送付。
- 応募期間●7月30日まで(当日消印有効)
- 【問】財団法人日野自動車グリーンファンド事務局 担当:花田・佐々木・阿部
- 住所:〒191-8660 東京都日野市日野台3-1-1
- TEL:042-586-5369
- FAX:042-586-5167
- URL:<http://www.hino.co.jp/j/index.html>

## 第23回市川房枝基金

- 援助課題●女性の地位向上、政治の浄化などのための個人及び団体の活動や調査研究で、社会に役立つものであること。
- 援助の対象●原則として女性であること(個人及び団体・グループ)
- 応募期間●8月31日まで(消印有効)
- 応募方法●所定の応募用紙に記入(日本語)の上、郵送のこと ※応募用紙の入手、その他詳しくは下記まで。【問】財団法人市川房枝記念会
- 住所:〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-21-11 婦選会館
- TEL:03-3370-0238・0239 FAX:03-5388-4633
- URL:<http://www.ichikawa-fusae.or.jp/O20/index.htm>
- e-mail:[fitikawa@trust.ocn.ne.jp](mailto:fitikawa@trust.ocn.ne.jp)

## 平成17年度滋賀県非営利活動団体による 太陽光発電設置支援補助事業

- 幅広く県民などから資金提供を得ながら太陽光発電施設を設置しようとするNPO等に対して、施設を設置する経費の一部を補助する事業を下記のとおり実施します。
- 対象●(1)NPO法人(特定非営利活動法人)(2)市民団体(特定非営利活動促進法第2条に規定する活動を行う団体であって、10人以上の構成員から成り、かつ定款、規約等を持ち、組織として意思決定ができる団体)(3)社会福祉法人、社団法人、財団法人、医療法人などの法人格を有する公益団体(国および地方公共団体が出資する団体は除きます。)
- 対象施設●次のすべてに該当するものとします。(1)太陽電池の出力が2kW以上10kW未満のもの(2)設置する施設が未使用のもの(中古品は対象外)(3)施設の設置場所は滋賀県内であること
- 募集期間●9月30日まで
- 【問】滋賀県エコライフ推進課 地球環境・新エネルギー室
- 住所:〒520-8577 大津市京町4-1-1
- TEL:077-528-3493 FAX:077-528-4847
- URL:<http://www.pref.shiga.jp/d/new-enege/>
- e-mail:[dh0001@pref.shiga.lg.jp](mailto:dh0001@pref.shiga.lg.jp)

## ユニバーサル財団

- 「新しい世紀の社会づくり」をテーマとした市民活動助成
- 助成の対象●高齢者が活動する市民活動団体・高齢者の医療・保健・福祉、まちづくり等、高齢者を対象とする市民活動を行う団体
- 応募方法●当財団所定の申請書に必要事項を記入の上、当財団あてご送付ください。(紛失等のトラブルを避けるため、なるべく書留や宅配便でお送りください。)
- 応募締切●7月31日(必着) ※選考方法等、その他詳しくは下記まで。
- 【問】財団法人ユニバーサル財団
- 住所:〒160-0004 東京都新宿区四谷2-14-8 YPCビル 5階
- TEL:03-3350-9002 FAX:03-3350-9008
- URL:<http://www.univers.or.jp/univers.html>

## 滋賀会館シネマホール 7月の上映予定

『オペラ座の怪人』 7月13日(水)～31日(日)	『故郷の香り』 7月27日(水)～
『バンジージャンプする』 上映中～7月16日(土)	日本映画名作特選・市川雷蔵と藤村志保
『大統領の理髪師』 上映中～7月16日(土)	『眠狂四郎・勝負』『忍びの者』『続・忍びの者』 7月17日(日)18日(祝)
『美しい残酷な朝』 7月27日(水)～	『破戒』『眠狂四郎・女妖剣』 7月20日(水)～23日(土)

## ◆リクエスト受付中!

各回入替制  
料金は作品によって異なります  
上映してほしい作品名と住所、氏名、  
毎週水曜日1,000円均一サービス  
電話番号を記入の上、ハガキ、ファックス、または電子メールで淡海ネット  
ワークセンターまでお送りください。 16:00以降の回1,200円均一サービス  
TEL:077-522-6191  
滋賀会館シネマホール

## イベント参加報告 琵琶湖を戻す会「琵琶湖外来魚駆除の日」

毎年5月の最終日曜日は、外来魚問題をアピールする「琵琶湖外来魚駆除の日」として、内容盛りだくさんのイベントが行われています。第4回を迎えた今年、初めて参加してきました。

参加費(保険料)200円を払って、まずは、「外来魚駆除釣り大会」へ。釣りの道具やエサは無料でいただけるので、気軽に参加できます。

お昼には、「琵琶湖の幸の試食会」。鮎の佃煮や、揚げたての鮎の天ぷら、そして、シジミ汁をいただき、「琵琶湖の幸はこんなに美味しいのだ!」と叫びそうになる気持ちをおさえ、「漁師さんの仕事の見学」に向かいました。

前の日までに仕込んでおいた「刺し網」を、漁師さんが目の前で引き上げてくれます。子どもたちは、外来魚だけでなく、網に掛かった大きなギンブナやハスに触れて大喜び。さ

らにそのあとは、外来魚の解剖教室。外来魚が何を食べているのか観察できます。「毎年、新しい参加者が増え、外来魚駆除運動の輪が広がっていることを実感します。」と代表の高田昌彦さん。

一日中、楽しみながら、外来魚の問題を学ぶことのできる「琵琶湖外来魚駆除の日」は来年も行われる予定です。他にも「エリ見学会」など、たくさんの催しを計画されています。

ぜひ、多くの人が、これらのイベントに参加し、琵琶湖の外来魚の問題を考えるようになればと思います。(林 章)

## ■琵琶湖を戻す会

<http://homepage2.nifty.com/mugituku/>



●代表の高田昌彦さん





# 行って来て見て 情報BOX 7・8月

ここに掲載できなかった情報はセンターホームページに掲載しています。http://www.biwa.ne.jp/ohmi-net

## イベント

### 「びわこみみの里」施設づくり支援 井原正巳氏講演会。

▶ 7月16日(土)9:50~12:00

内容●あの井原正巳さん(サッカー元日本代表主将・現NHK解説者)が、ふるさと湖国にてサッカーの魅力について語る!!  
●滋賀にもJリーグチームを...

●ワールドカップの魅力と選手しか知らない話  
●サッカーを通じて子どもたちへのメッセージ  
●プロスポーツ選手と福祉活動

会場●栗東芸術文化会館さくら(JR栗東駅東口から徒歩5分)

参加費●大人1,500円(当日1,700円) 中高校生800円(当日1,000円) 小学生500円(当日700円)

主催●みみの里づくりをすすめる会

【問】滋賀県立聴覚障害者センター内「井原正巳氏講演会」実行委員会  
住所:〒525-0032 草津市大路二丁目11-33  
TEL:077-561-6111  
FAX:077-565-6101

### 第8回赤野井湾探検隊

▶ 7月18日(月・海の日)8:30~15:00

内容●漁師さんの田舟に乗り、エリ体験、水生植物、水質を子供たちと調べ、琵琶湖を見ます。

場所●守山漁港、赤野井湾  
参加費●1,000円(昼食・資料代)

【問】NPO法人びわこ豊穡の郷  
住所:〒524-8585 守山市吉身2丁目5-22  
TEL/FAX:077-583-8686  
URL:http://www.lake-biwa.net/akanoi/  
e-mail:houjiyou@lake-biwa.net

### 2005夏休み!子どもの広場

▶ 7月22日(金)10:30~15:00

場所●滋賀県立草津文化芸術会館

内容●11:00~人形劇「エルマーのぼろけん」児童劇団「なかにしひろほ」/11:30~音楽「いっしょにあそびみんなともだち」おやこミュージックランド/13:00~人形劇「お満灯籠」人形劇サークルおひとよし/13:30~狂言あそび「うさぎとかめの京のぼり」わらい袋/14:00~舞台劇「きつねのおきゃくさま」市民劇団0°劇場/10:30~15:00活動展示、鑑賞・体験、もぎ店など。

参加費●500円(前売400円)4歳以上有料  
【問】滋賀県立草津文化芸術会館  
TEL:077-564-5815

### 綿向山へ登ろう

▶ 7月30日(土)10:00~15:00

内容●日野川の源流を訪ね、8合目の「金明水」をゲットしよう。動植物の生態観察の調査をします。

集合●日野町綿向山登山口駐車場  
参加費●無料

【問】NPO法人日野川を見守る会 小栗勝則  
TEL/FAX:0748-33-5775  
e-mail:k-oguri@mx.biwa.ne.jp

## 勉強会・交流会

### 講演会「じょうぶな子どもをつくる基本食」

▶ 7月30日(土)13:45~16:00

会場●ひこね燦ばれす多目的ホール(JR南彦根駅西口から徒歩8分)

講師●幕内秀夫氏  
参加費●前払い800円、当日払い1,000円

託児●1才以上(定員あり) 会員1人300円・非会員1人600円、2人800円、3人1,000円

【問】学校給食と子どもの健康を考える会滋賀支部  
TEL/FAX:077-558-0538

### 第26回全国在日外国人教育研究会 滋賀大会

▶ 8月22日(月)12:30~17:00

▶ 8月23日(火)9:30~16:30

内容●近年増え続ける在日外国人の子どもの教育実践を報告し、研究討論します。また、多文化共生をめざし、母語や母文化の保障のとりくみを交流します。滋賀県内の実践は、全体会・分科会を通して報告します。

場所●22日(全体会)近江八幡市文化会館  
23日(分科会)滋賀県立大学(彦根市)

参加費●4,500円(資料代を含む)  
託児●あり

【問】近江八幡市立八幡西中学校(清原)  
TEL:0748-34-8383

## 参加者募集

### 自然・生活体験キャンパス/夏のくつき子ども村

☆PART1:7月24日(日)~30日(土)

6泊7日 参加費35,000円

☆PART2:8月4日(木)~13日(土)

9泊10日 参加費48,000円

場所●高島市朽木平良分校

対象●小3~中1 定員●各回32名  
内容●水上大玉サッカー、水中宝さがし、水上キックベース、肝だめし、初歩の沢のぼりと沢くだり、ダンススタジオ、クイズバトルなど

【問】草の根農業小学校 TEL/FAX:077-559-0339  
URL:http://www4.ocn.ne.jp/~kusanone/

### 大津市立やまびこ総合支援センター 「さくらほす・ひまわりほす」ボランティア

内容●主として知的障害者に対する、大津市のサービス拠点です。国道1号線に面した、大津市民病院の向かいにあります。知的障害児者地域生活支援センター、知的障害者サービスセンターなど、いくつかの施設があります。その中に「すみれほす」「ひまわりほす」などもあります。お手伝いいただくのは障害者の生活介助(食事・移動)、療育介助(お話し相手・散歩・絵本読み・音楽)掃除等。

期間●6月~9月の月曜日~土曜日  
時間●10:00~16:00 人数●5人  
程度 服装●普段着(ズボン着用)、上履き要

※弁当持参、あるいは施設で注文(330円)  
【問】大津市立やまびこ総合支援センター  
さくらほす・ひまわりほすボランティア係 TEL:077-527-0495

### 平成17年度美術館からの発信「センス・オブ・ワンダー」 はじまりはちいさな「なぜ?なに?」総合的学習を美術館とともに

趣旨●学校と美術館・博物館とが連携して、さらに実りある活動を進めるため、研修・交流会を開催します。教員や教育関係者の方に美術館に足を運んでいただき、美術館を総合的学習の中にとどのようになかすことができるのか、さまざまな手法を考える機会にしたいと企画しました。

【第1日目】8月8日(月)10:00~16:30

場所●MIHO MUSEUM 内容●「乾山に学ぶ」連携授業ができるまで  
参加館の体験プログラム紹介 「聖なるものの造形」展レクチャー

ワークショップと参加館によるブース 特別展「生誕110年芥沢鞋展」を鑑賞 参加費:1,000円(テキスト代含む)  
【第2日目】8月9日(火)9:45~16:00

場所●滋賀県立陶芸の森 内容●陶芸の森野連携授業の事例から  
ワークショップー作家との出会い、作品制作のおもしろさを体感。

六窯・登窯 自由見学 企画展「日本の現代陶芸・海外の現代陶芸ー迫力の時代」  
まとも「さまざまなプログラムで広がる連携授業」

参加費●2,000円(材料と焼成費含む)

【問】MIHO MUSEUM 学芸部 畑中TEL:0748-82-3411 FAX:0748-82-3414

## 助成金情報

### イオン環境財団 助成先公募ー基本テーマ「自然の生態系を守るために」ー

◇第15回助成先公募(総額1億円)

対象●海外(主に開発途上国)および日本国内での活動を対象とし、※フィールドワークを伴う環境保全活動を行っている団体・個人

申請テーマ●「植樹・緑化・砂漠化防止」「野生生物保護・生態系保全」「自然環境の浄化」「その他自然の生態系を守る為の実践活動」 ※フィールドワークとは、野外作業や実地調査をすること。

◇財団設立15周年記念特別助成先公募(総額5000万円)

対象●日本国内の森林再生のための植樹および森林整備を積極的に行っている団体

申請テーマ●「日本国内の植樹・下草刈り・除伐・間伐等」  
助成対象期間●2006年4月1日以降に開始し2007年3月31日までに終了する事業であること。

応募期間●2005年8月20日(土)まで

申請資格●(1)環境保全活動を継続的に行う団体または個人であること。(活動履歴が1年以上あること)(2)環境問題に造詣の深い日本の学識者、広い視野で環境問題を考えている地域の学識・有識者、あるいは関連分野の専門家(個人・団体)1名の推薦を得ること。(申請団体と利害関係を持たない方)(3)申請する団体または個人が海外在住の場合は、窓口担当が日本に在住する団体または個人であること。(4)株式会社、有限会社は応募できません。

応募要項と申請書の入手方法●下記のホームページより応募要項及び申請書類を入手できます。郵便での資料送付をご希望の場合は、資料返送用定形封筒に郵便番号・住所・氏名を明記の上、80円切手を同封して下記までお申込み下さい。

応募締切●8月20日(土)必着

【問】(財)イオン環境財団  
住所:〒261-8515 千葉県美浜区中瀬1丁目5-1  
TEL:043-212-6022 FAX:043-212-6815  
URL:http://www.aeon.info/ef e-mail:ef@aeon.info

### 第4回「マイクロソフトNPO支援プログラム」 ~ITを活用したNPOの活動を助成~

助成対象プロジェクト●「ITの活用」に重点をおいたプロジェクトで、以下のテーマのうちいずれか、もしくは両方に当てはまるものを分野にかかわらず、助成の対象としています。

(1)「人々の可能性を最大限に引き出す」活動・応募団体や受益者の可能性を広げ、豊かな夢のある生活をもたらす活動

(2)社会的課題の解決をめざす活動・住みよい社会を実現したり、さまざまな社会的課題を解決する活動

助成対象団体●(1)日本国内に活動拠点をもち、日本国内で活動するNPO(法人格の有無や種類は問いません)(2)法人格を有する場合には活動年数は問わない。ただし、法人格を持たない団体は2年以上の活動実績が必要(3)基本的なITの使用が可能なこと

応募期間●7月20日(水)必着

応募方法●下記、第4回マイクロソフトNPO支援プログラム公式サイトから応募用紙をダウンロードし、所定の事項を記入の上、電子メールアドレスで送信。

【問】メールのみ  
e-mail:jnpn4@microsoft.com  
URL:http://www.microsoft.com/japan/npo





## おうみ市民活動フォーラム inひこね 実行委員を募集

淡海ネットワークセンターは、市民活動やNPOに対する理解を深め、活動への参加の気運を盛り上げるとともに、団体の活性化のために「おうみ市民活動フォーラム」を開催します。

このフォーラムは、市民団体の皆さんや関心のある方々と一緒に作り上げたいこうと実行委員会を組織することにしました。

この実行委員会のメンバーを募集しますので、ふるってご応募ください。

◇募集人員：30名程度

◇応募資格：市民活動を実践しているか市民活動に関心があり、準備のための打合せ、市民活動フォーラムの当日運営に参加できる方

◇役割：フォーラムの企画から運営まで携わっていただきます。

おうみ市民活動フォーラム（開催日：11月19日（土）～20日（日）／場所：ひこね市文化プラザ）

◇会議日程：実行委員会は7月から11月まで、おおむね6回程度開催します。

◇交通費等：打合せ会議出席時に、交通費の実費のみ支払います。

◇応募方法：氏名、所属、住所、電話、FAX、Eメールアドレス、応募にあたっての抱負（100字程度）を記入のうえ、郵送、FAX、Eメールでご応募ください。

■応募先・お問合せ先：

淡海ネットワークセンター  
〒520-0801

大津市におの浜1-1-20（ピアザ淡海2階）

TEL：077-524-8440

FAX 077-524-8442

## NPOのための会計・ 税務基礎講座

淡海ネットワークセンターでは、日常の会計処理、決算処理、給与事務、税務など、NPOの会計・税務の基礎を学ぶ講座を開催します。日頃の疑問にお答えする時間を設けますので、ふるってご参加ください。

◇日時：7月23日（土）13：30～17：00

◇場所：近江八幡勤労者福祉センター

2階研修室（アクティ近江八幡）

◇定員：30名

◇対象：現在NPOの会計に携わっている方、これから携わろうとしている方

◇参加費：1,000円

◇当日の持ち物：のり、はさみ、電卓

◇申込方法：氏名、所属、電話、FAX、Eメールアドレスを記入のうえ、郵送、FAX、Eメールで淡海ネットワークセンターまでお申込みください。

◇講師：藤崇之さん（公認会計士）

## ●スタッフ紹介

滋賀県へ来て8年目になりました。はじめはびわ湖の環境問題に興味があり、次第にそれを取りまく市民活動に関心をもつようになりました。滋賀には情熱を持ち活動をされる方がたくさんおられ、そのパワーには圧倒されることもしばしばです。センターでの業務を通じての出会いを楽しみにしつつ、皆さんのお役に立ちたいと思います。よろしくをお願いします。



（事務局 高峯陽子）

## おうみNPO活動基金に150,000円を寄付

このたび、財団法人損保ジャパン環境財団様より、NPO活動支援のための「おうみNPO活動基金」に150,000円の寄付をいただきました。貴重な浄財をお寄せくださいました、財団法人損保ジャパン環境財団様に対しまして深く感謝申し上げます。

## 編集後記

私は生協で勤務していますが「親子農業体験」といった企画などで大中を行き来しています。これもまた、子どもに野菜畑の様子やそこの生き物を見せる場になっているわけで、この点では農業と「子育て」「環境教育」の連携になっているということですね。

（編集ボランティア 松田）

今回プロジェクトを取材してみて、リタイア後の男性のパワーに驚きました。市民活動は女性が中心となることが多かったように思いますが、どっこい、お父さんたちも元気です。始めるのは常に「今」から。年齢なんて関係ありませんよね。

（編集ボランティア 幡）

子どもたちが自然の中でびのびすこせたらいいなあ、きっと誰もが願うことだと思います。でも、こんな願いを行動につなぐのはなかなか難しい…。そんな壁をひょいっと、しかも楽しそうに越えて、ネットワークを作っていく。NPOの持つ可能性を実感する取材でした。

（編集ボランティア 西尾）

今号から「おうみネット」の編集を担当することになりました。これまで取材・編集の経験がほとんどないので、手探りでやっと発行できたという感じです。特集はいかがでしたでしょうか。どうぞ皆さんからの厳しいご意見で鍛えてやってください。m(\_ \_)m

（事務局 笹山）

## 9月号のアンケート

アンケートにご回答いただける方は、性別・年齢をご記入の上、ハガキ、ファックスまたは電子メールで下記までご送付ください。住所・氏名をご記入いただいた方には抽選で粗品をプレゼントいたします。アンケート締切：7月末日

Q1／あなたは老後に楽しみにしていることはありますか。

a.はい b.いいえ c.わからない

Q2／あなたの老後の生活スタイルは？

a.一人暮らし b.二世帯同居 c.夫婦  
d.友達と暮らす e.その他

Q3／人生をいきいきと過ごすために社会に必要なのは？

a.交流・活動の場 b.定年の延長  
c.福祉サービス d.生涯学習の充実 e.その他

Q4／あなたは、どんなシニアになりたいですか？



※淡海ネットワークセンターが本誌上を通じて募集する講座等の申込やアンケートの回答に際して記入いただく個人情報については、下記目的以外に利用しません。また、個人情報を第三者に提供することはありません。アンケートについては集計処理した結果のみ公表することとし、個人の回答内容について公表いたしません。

- ・講座等の開催にかかる連絡
- ・講座等の企画
- ・アンケートの集計・分析
- ・アンケート回答者に対する抽選・粗品の送付

## 淡海ネットワークセンター

（財）淡海文化振興財団

■〒520-0801 大津市におの浜1-1-20

■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442

■http://www.biwa.ne.jp/~ohmi-net

■E-mail:ohmi-net@mx.biwa.ne.jp

ご利用日時●月曜日と祝日の翌日を除く毎日（12/29～1/3を除く）

火～金曜日/9:00～19:00 土・日曜日、祝日/9:00～17:00

●淡海ネットワークセンターの情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。

・各地域振興局、県民情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、草津まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、さきらホール、滋賀銀行、滋賀県信用組合、郵便局（ボランティア貯金窓口）、公民館など



©無断転載を固くお断りします。

